



永福学園通信

令和8年2月19日

第10号

東京都立永福学園
統括校長 三浦 昭広

挑戦と共生を体感—パラアスリートと学ぶ車いすラグビー体験会

東京都立永福学園 副校長 松本 忍

世界は今、イタリア・ミラノとコルティナダンペッツォを舞台に冬季オリンピックの熱気に包まれています。日本選手団も連日メダルラッシュを続け、スピードスケートやフィギュアスケート、スキー、スノーボードなど多彩な種目で大活躍しています。

まさに開催式当日（現地時間）の2月6日（金）に本校では「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」の取組として、肢体不自由教育部門高等部と就業技術科を対象に車いすラグビーをテーマに体験会と講演会を実施しました。講師には、東京・パリ両パラリンピックでメダルを獲得し、世界のトップを走る池崎大輔選手と島川慎一選手をお招きしました。



当日のプログラムは、選手によるデモンストレーションから始まり、軽快なトークとスピードあふれるプレー、そしてパワーあふれるタックルで、生徒たちの視線を釘づけにしました。両部門の生徒たちと選手で繋ぐパス回し体験、続く車いす操作体験では、競技用車いすへの乗り換えや走行練習、そしてタックル体験など、初めての挑戦に笑顔があふれていました。模擬試合では、5人対5人の緊迫したゲームを通して、混合チームでは部門を超えて交流し、互いに相手を思いあうチームワークの尊さを体感することができました。



大会で日本選手が見せているメダルへの情熱と、パラアスリートのお二人が語ってくださった「目標をもって努力し続けること」や「仲間を思いやること」は、まさに共生社会の理念そのものです。メダル獲得の快挙に沸く冬季オリンピックと同じく、本校の体験活動もまた、生徒一人一人の成長への大きな一歩となりました。





各部門の教育活動の紹介



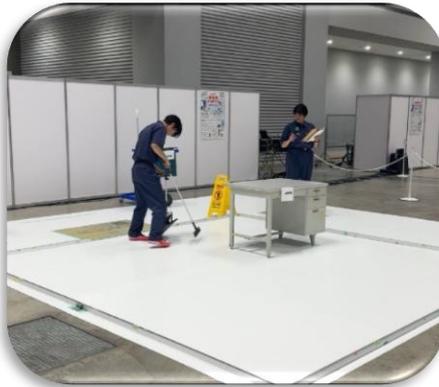
《高等部就業技術科》 TOKYO 障害者マッチング応援フェスタ

2月10日（火）に東京ビッグサイトで「TOKYO 障害者マッチング応援フェスタ」が行われました。障害者雇用を積極的に検討している企業と生徒とのマッチング及び障害者雇用の促進を目的としたイベントです。

本校からはビルクリーニングコースの3年生が3名参加し、清掃活動を実演しました。「お客様に見られているという、いつもと違う環境に緊張した」、「他の学校の発表を見学して、自分ももっと機械を使いたいと思ったし、刺激を受けた」、「掃除をする上で気を付けていることを発表したけど、緊張した」、「進行も担当したが、うまくできて良かった」など、感想が多数挙げられました。緊張の中でも、日頃の授業の成果を存分に発揮することができました。

また、今回の反省点や2年生に向けての改善策等を話し合う姿に頼もしさを感じました。

卒業生や他校の先生方も本校生徒のところへ来て話しかけてくれるなど、緊張の中にも和やかなムードで1日を過ごすことができました。



《肢体不自由教育部門》社会貢献活動の紹介

今年度、肢体不自由教育部門では、児童・生徒が様々な社会貢献活動に取り組んできました。以下に学部ごとの活動内容を紹介します。

小学部

永福町商店街にある生花店からビオラとキンギョソウの花の苗を受け取り、プランターに植え付けてから、商店街にある花壇に運び、水やりをする活動を行いました。きれいに咲いた花々は永福町の一角に彩りを与え、道行く人の気持ちを温かくすることでしょう。



中学部

高齢者のデイサービスセンターに、作業学習で作製したしおりを贈呈しました。読書の時間にぜひ使ってほしいです。センターからは、お返しに、御利用者様が作製したフェルトのぬいぐるみを寄贈していただきました。



高等部

校内では、就業技術科からの依頼を受けて、カフェに飾る絵を制作したり、カレンダーに載せる写真を撮影したりしました。校外では、永福町商店街の店舗に出かけ、作業学習で作製した藍染めのハンカチをお渡ししました。様々な方法で人や地域に貢献しました。



東京都立永福学園

副校長 安田 泉 松本 忍 篠塚 奈緒子
主幹教諭 三浦 千尋 吉岡 美佳

〒168-0064

東京都杉並区永福1丁目7番28号
電話 03-3323-1380